

かたりべ 99

豊島区立郷土資料館だより



雑司谷村絵図 (個人蔵)



正保国絵図〈豊島郡〉(部分) 国立公文書館所蔵

「豊島郡」はひろいな♪ おおきいな♪

郷土資料館では、来る一〇月二二日(金)より企画展「豊島郡の村絵図」を開催いたします。

村絵図とは、江戸時代に村ごとに作られた絵地図のことで、多くの場合彩色が施され、そこには作成者が伝えたいメッセージが絵や文字で盛り込まれています。江戸時代の豊島区地域は、上駒込村・栗鴨村・雑司ヶ谷村・下高田村・長崎村・新田堀之内村・池袋村の合計七ヶ村で構成されており、現在、上駒込村・栗鴨村・雑司ヶ谷村・下高田村・池袋村の五ヶ村の村絵図が確認されています。

みなさんご存じのように、現在の豊島区は一九三二(昭和七)年一〇月一日に誕生しました。区の名前が決定するまでには紆余曲折があったようですが、江戸時代の武蔵国豊島郡、明治時代以降の東京府北豊島郡、で用いられた「豊島」という古代以来の地域名称を引き継ぐことで「豊島区」に落ち着きました。このことについて、一九三二年六月二五日号の「東京市公報」所収「新東京プロフィール(十二) 環状道路が表徴する豊島区の新興ぶり―豊島区の巻―」には、「東京府の旧五郡が市に解消されて、新らしく二十の区が呱呱の声を挙げようとしているが、「豊島」の区名は豊多摩郡を除く他の三郡とともに旧郡名に対する仄かなセンチメンタリズムの表れだ。」と記されています。やや難解な内容ですが、豊多摩郡以外の葛飾・足立・荏原(のちに品川区の一部となる)・豊島の四区については、旧郡名が区名として引き継がれたことを、「センチメンタリズムの表れ」とやや辛口の言い回しで紹介しているわけです。

今回の企画展では、江戸時代に豊島郡を構成していた一〇〇カ村余のなかで、二〇数点の村絵図を展示いたします。東京二三区のうち、板橋・練馬・豊島・北・荒川・台東・文京・新宿・渋谷・港の一〇区にまたがる江戸時代の豊島郡域の広大なひろがりや、現在の景観写真や地図と見比べながら体感してください。

(秋山)

資料整理にたずねあひつゝ びっぴいふ

当館は、一九八四（昭和五九）年に勤労福祉会館の七階に開館してから二六年の歳月が流れました。資料は、豊島区内の方たちから寄贈され、その割合は館蔵資料全体の九割を占めます。

多様な資料は、当館内で開催する展示会で公開します。そのほか、小中学生の学習用として使用します。研究者が学術資料として閲覧します。さらに、ほかの博物館が展示をするために貸し出しすることもあります。

寄贈を受けてから歳月が流れた資料については、保存の状態を確認します。また、新しく仲間入りした資料になる前のモノについては、ほこりや虫を除去します。このような作業は、展示室では見られない資料館の仕事です。

ここでは、資料の取り扱いの知識と経験をもつ調査員の方々からの感想を紹介します。

（福岡）

◆普段から扱わせていただいている生活資料は、豊島区内の生活の変遷を感じる事ができる資料ばかりである。日々、



大きな地図はひとりでは広げられない。2920×2080mm。

発見と感動の連続！

（安藤）

◆収蔵品をきれいにし、その特徴を文章・写真・図で詳細に記録する。大変だが、後世の方々の参考になると思うと嬉しい。

（太田）

◆資料整理は、時に雨漏りや夏の日差しと格闘しつつ着実に進んでいます。この成果が、より役立つよう今後も皆で協力し合いたいです。

（大貫）

◆調査員は、いろいろな個性を持っている。金属資料は小松さん、陶磁器は広瀬さん、紙資料は私。整理整頓は木場さん。みな、特技を発揮している。

（北村）

◆日常よく目にするようなありふれた物でも、じっくり見ると、たどってきた歴史がにじみ出てきます。毎日が、驚きと発見の連続です。

（杏沢）

◆残され伝えられてきた「資料」の整理作業には、昔に想いを馳せる瞬間がある。語られる未知を多くの人と共有できる一歩を感じた。

（木場）

◆資料を、樹脂製の保管箱に納める。使い回して汚れた箱は、年季がはいった私の水洗いの技でピカピカに。実は、このような作業こそ大事なことなのだ。

（小松）

◆資料は、地域の人々の歴史のかたりべです。たまに無口な資料もありますが、整理作業は、資料との楽しい会話の時間です。

（佐久間）

◆今年から憧れの資料館の仕事に関わることになった。実際に資料に触れ、勉強になっている。これからは様々な資料と出会っていききたい。

（野村）

◆言い伝えの研究が専攻の自分にとって、有形の資料から、その向こうにある生活や身体のある方を考える機会は、新鮮で

貴重な体験です。

（広川）

◆日常生活の中で「物」に刻まれた「喜怒哀楽」の整理を通して教えられた時、その時代に憧れ、感動の機会に出会える。そして、作業仲間から多くを学ぶことができる。

（広瀬）

◆資料整理は、資料の新たな魅力を発見する作業ともいえる。展覧会で、自分が整理した資料が展示されたときの喜びはひとしおである。

（丸山）



社会背景がわかる戦中戦後のレコード盤

◆生活資料の整理でカルチャーショックを受けることがある。時代や地域の違いで、見たことのない資料に出会える醍醐味がある。

（三村）

◆資料のホコリやカビを払う作業のとき、マスクをしても鼻の奥までくすぐられる。でも、それが歴史を伝えるための大切な過程である。

（李）

■最も身近な野菜

「豊島区の特産物」シリーズでは、これまで「駒込茄子」「東京山茄子」「雑司ヶ谷南瓜」「果鴨小鮒」を紹介しましたが、豊島区域で最も多く栽培され、食生活に欠かせない身近な野菜といえば、やはり何と言っても「大根」(蘿蔔)です。

土が深く、高燥な武蔵野台地に位置する豊島、板橋、練馬、北区域などの近郊農村地帯は、江戸時代から大根、牛蒡、人参、芋類などの根菜類の一大産地でしたが、なかでも大根は栽培面積・収穫量ともにトップの重要な野菜でした。

■江戸の名物大根

江戸時代から有名だったのが「練馬大根」です。「新編武蔵風土記稿」(文政一年・一八二八完成)は、「豊島郡」の産物の筆頭に、「蘿蔔 郡内練馬辺多く産す。いづれも上品なり。其内練馬村内の産を尤上品とす。さればこの辺より産する物を概して練馬大根と呼、人々賞美せり。」と紹介しています。その起源については、五代將軍徳川綱吉が脚氣のため下練馬村に静養中、尾張から大根種子を取り寄せ栽培させたという説と、上練馬村の百姓

鹿島又六が品種改良したという説があり、

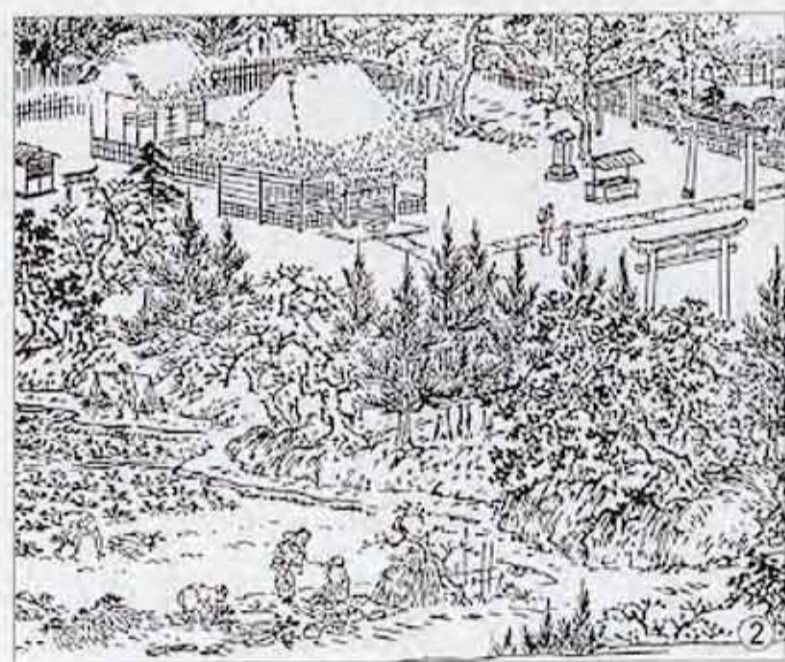
主として漬物用と煮食用の品種がありました(「新版練馬大根」練馬区教育委員会、一九九八年)。一方、清水村(板橋区)では、「清水夏大根」とその種子が、江戸の名物として知られていました(「岐蘇路安見絵図」宝暦六年・一七五六)。

■豊島区産の大根

江戸時代に豊島区域で生産された大根はおそらく練馬大根系と思われるが、実態は不明です。ここでは地誌や絵図に登場する大根について紹介します。

芝蘭室

主人「江戸塵拾」明和四年(二七六七)に、「大だいこん」として、「雑司ヶ谷鬼子母神別当大行院より毎年冬、御内々にて奥向え大根



を献す。長さ三尺余太サ壹尺五寸廻りほどある無類の大たいこんなり。」とあります。大行院(のち法明寺に合併)から大奥に、長さ九〇センチ余、胴回りが四五センチ余もある大きな大根を、毎冬献上していたようです。雑司ヶ谷村産の巨大根として珍重されたのでしょうか。なお、「江戸名所図会」(天保七年・一八三六)には、雑司ヶ谷村の清立院の下を流れる弦巻川の洗い場で大根を洗う百姓の姿が描かれています(図①)。また、「十羅刹女堂」(現天祖神社、南

大塚三丁目)の図には、西南二帯に大根畑が広がり、大根を引き抜く人、束ねる人、担ぎかごで運ぶ人、休憩する親子など、大根の収穫風景が描かれています(図②)。現在では想像ができませんが、サンシャイン60が建つ東池袋一帯の高台は、かつて大根の一大産地でした。

■地名に残る大根

大橋八右衛門方長「江戸図説」(寛政一年・一七九九再書)には、「大根原 果鴨真性寺辺、染井藤堂家下屋敷西を云。元禄比江戸図をみるに南ハ、すがも板橋通り北、染井通りのあいた建部家西の方、大根原村と有り。」とみえ、「果鴨染井王子辺図」(近吾堂板、嘉永五年・一八五二)にも「スガモ村のウチ、此辺大根原ト云」とあります。「大根原」は、現在の果鴨五丁目(西果鴨四丁目付近を指す地名で、以前は交番の名称に用いられるなど、地元では馴染みの深い地名でした。この地域が、江戸時代から続く大根の一大産地であり、また大根の採種地であったことを知る人は少なくなっています。次回では、明治時代以降の大根生産と種子の販売について紹介します。(横山)

郷土資料館からのお知らせ

★企画展「豊島郡の村絵図」関連事業

■まちあるき「江戸時代の村絵図をあるく」(全三回)

①十月二十八日(木) 一八時半～二〇時

ガイドダンス(勤労福祉会館会議室)

②十月三〇日(土) 一三時半～一五時半

池袋村絵図をあるく

③十一月六日(土) 一三時半～一五時半

東鴨村絵図をあるく

◎講師・秋山伸一(当館学芸員)

*三回とも出席できる方、七～八キロ程度歩ける方

*テキスト「豊島区地域地図 第七集

近世(村絵図Ⅱ)編」代二二〇〇円と

保険代一〇〇円がかかります。

■親子体験教室「ぼくたちわたしたちの

「むらえず」をつくってみよう」

十一月二三日(土) 一四時～一六時半

(小学校三年生以上の親子)

■記念講演会「江戸時代の地誌編さんと

村絵図」

十一月二七日(土) 一四時～一五時半

講師・白井哲哉氏(筑波大学大学院准教授)

※右記の3事業については事前に申し込みが必要

みが必要です。往復はがきに、①事業

名②住所③氏名(ふりがな)④年齢⑤

電話番号をご記入のうえ、「まちある

き」は十月一四日、「体験教室」は十月

二六日、「講演会」は十一月五日までに

郷土資料館あてにお申し込み下さい。

区民のための 博物館用語の基礎知識

②ミュージアムショップ(英museum shop)

博物館や美術館の一角に設けられた販売店舗のこと。もともとは開催中の展示カタログを販売する部分であったが、次第に拡大して、過去の展示会のカタログ、研究紀要類、オリジナルミュージアムグッズ等を取り扱うようになった。近年では博物館の収入源として、またリピーター(再来館者)を確保していくため、その充実と工夫が図られてきている。

▽用例△

来館者「このミュージアムショップは広くていいねー！」

○博物館職員「ありがとうございます。当館のミュージアムショップは、常設展示室よりも広いことを何よりのウリとしております。ハイ！」
来館者「うーん、それってどうなのよ？」

編集後記

「今年の夏は異常気象です…。」
とあっさりと言象庁に言わしめたあの酷暑がようやく終わりました。
「平年並み」、「フツー」、「ちよっどいい」の素晴らしさをひしひしと感じている今日この頃です。

企画展「豊島郡の村絵図」開催まであと約一ヶ月。チラシ・ポスターの発送、展示図録の入稿、関連事業の調整、展示プランの最終確認など、仕事盛りだくさんで、嬉しい悲鳴をあげています。涼しい秋風を味方につけて、そろそろ展示準備の「クライマックスシリーズ」へ突入です。
一〇月二二日～一二月二二日までの会期中に、皆さんどうぞ来館ください。
(秋山)

資料館の法則 学芸プロ 26



かたりべ No.99

2010年9月25日

豊島区立郷土資料館

東京都豊島区西池袋2-37-4
豊島区立勤労福祉会館7階

電話 03-3980-2351

URL: <http://www.city.toshima.lg.jp/bunka/shiryokan/>